

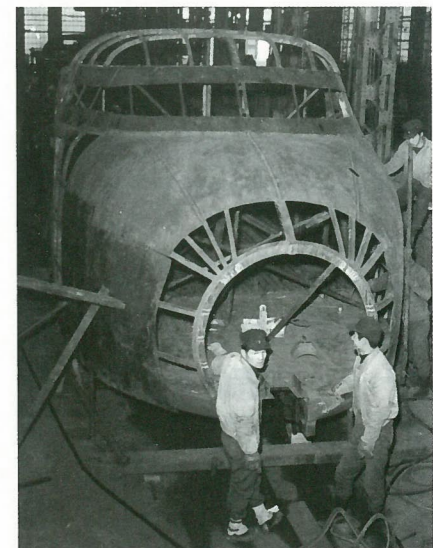
たたいて縮ませることもできます

打ち出し板金
(平成22年度現代の名工受章)

藤井洋征さん (70)

今春には北陸新幹線が開通し、全国をつなぐ時代となった。車両の先頭部は、打ち出し板金という技法で作られているという。その卓越した技術を見せていただくべく、眼下に瀬戸内海を望む山口県下松市を訪れた。

山下工業所は、先代で創業者の山下清登さんが、先頭部を作るために起業。手仕事の家系に生まれるも、四歳のときに父親が他界。家族は貧し



写真提供：(株) 山下工業所

(株) 山下工業所
代表取締役 山下電登
〒744-0002
山口県下松市東海岸通り1番27
TEL：(0833) 41-3333 (代)

新連載 現代名工の手

撮影・田村太平
文・寺本正尚

い生活から逃れ、母親と九人きょうだい末子の清登さんだけが残った。母を助けたい一心で、板金技術を身につけた。東京五輪に合わせて東海道新幹線が計画され、これからは新幹線が日本中を走る時代になると、昭和三十八年に創業。支えたのは、新妻の悦子さん。美容師として家計を支えながら、会社の金策に奔走する毎日だったと笑う。

「銀行には、正面から入ったことはほとんどありませんでした。苦労はしましたが、皆さんに可愛がってもらいましたね」

下宿中の職人さんたちの食事も、朝昼晩と欠かさず作った。職業訓練校で板金の技術を得て、入社してきた藤井洋征さんも、その一人。

「車の凹みを、たたき出す程度の仕事かと思ってたんですよ。この世にまだないものを作るんで、最初は失敗もしましたが、先輩の仕事を見て覚えましたが、仕事がキツいのか、その先輩が次々に辞めていって。気がついたら最年長組になってました」

藤井さんは、平成二十二年に、厚生労働省から「現代の名工」を受章した。同社では、平成二十年の國村次郎さんに続く二人目となる。

打ち出し板金は、地元でも認知度が低かった。それを一気に押し上げたのは、二代目の山下電登社長発案による楽器作り。ヴァイオリンやチェロなどの曲線を、アルミをたたき出す技術で見事に再現。それを体験させていただいた。

実際に見ても、なお目を疑った。金属を自在に操る、まさに錬金術士。

「やっぱり、思い通りのものができたときのうれしさは、代え難いですね」

触らせてもらうと、ほっそりやせたキレイな手だった。「修業中はマメだらけでしたけど」

創業者から受け継いだ技術を次代に伝える、名工の笑顔が印象的だった。



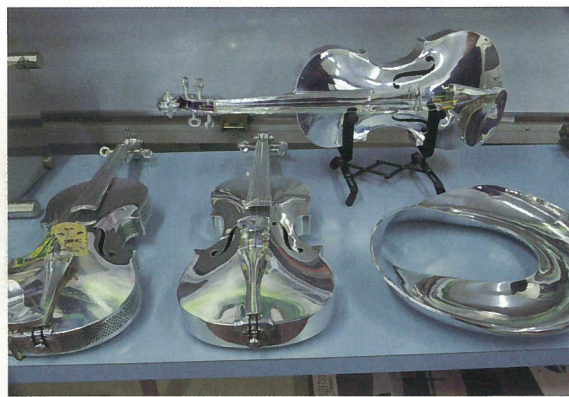
新幹線と同じアルミで打ち出されたチェロ。



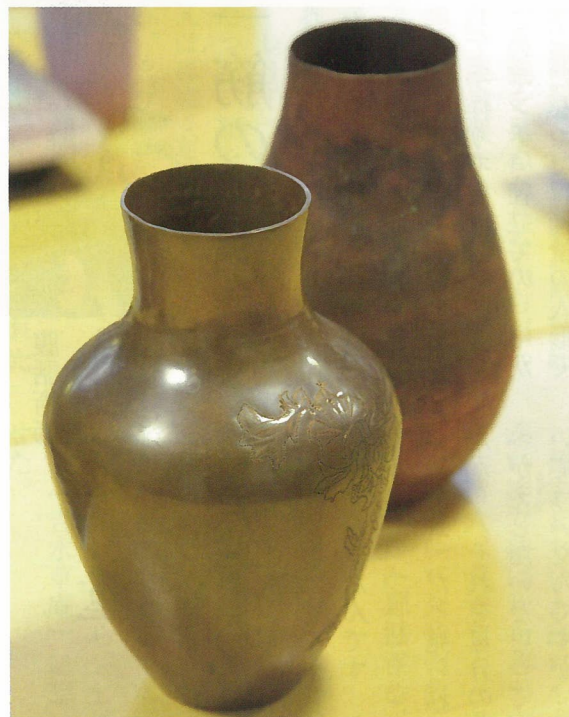
山下電登社長(右)、悦子さん(左)と。



パソコンケース。



右下は「メビウスの輪」。



創業者山下清登さんが、直径30cmの銅板から、切り貼りせず打ち出しだけで試作した。